

はじめに

東日本大震災津波の発災から5年が経過し、漁船、養殖施設等の復旧はほぼ完成したものの、未だに応急仮設住宅等に1万6千人以上の方が暮らしておりますが(平成28年9月30日現在)、多くの皆様から御支援をいただきながら、力強く復興へ進んでおります。

さて、平成27年漁期には、岩手県の主要魚種であるサケの漁獲量が約9,500 tと前年の6割程度に、また、サンマも漁場が沖合いにあり、単価は高かったものの、漁獲量は前年の半分以下の約20,000 tであり、漁業者のみならず、地元の水産加工業者にも厳しい年でした。

一方、養殖ワカメの生産量は約15,000 t(県漁連共販)と前年並みの生産量を維持し、価格も前年よりは良く推移しました。アワビも前年の1割り増しの約290 t(県漁連共販)水揚げされ、少しは浜に活気が戻ってきた気がします。

近頃の海況は、昭和年代には10年に一度と言われた異常冷水が、頻繁に接岸し、その後急激に水温が上昇する傾向があり、放流後のサケ稚魚、アワビ資源量、海藻等々に大きな影響を与えているものと推測されます。

このような中、当センターでは、「築こう魅力あるいわての水産！心一つに技術で支援」をキャッチフレーズの下、各種モニタリング、技術開発、情報発信等々で水産業の復旧・復興を支援して参りました。

今後も、現場主義を貫き、関係者の御意見御要望を取り入れながら、他の研究機関と連携しつつ、本県水産業を担う漁業者、水産加工業者の着実な復興、更なる発展へ、技術支援を推進して参りたいと思います。

平成28年11月

岩手県水産技術センター所長

煙山 彰